

# 農福連携で地域が元気になりました！

岩手県花巻市 高松第三行政区ふるさと地域協議会  
事務局長 熊谷哲周

## 1 地域住民の大半が反対の設立総会

少子高齢化や農業所得の低迷に「このままでは地域が消滅してしまうのではないかと危機感を抱いた住民6人が設立発起人となって開いた平成20年6月19日の協議会の設立総会。「地域の維持のためにも何か手を打たなければ大変なことになる」という発起人の説明に対して、多くの参加者から「新しい組織を作ってどうする。既存組織の活動で十分だろう」とか「どうせ失敗するのだからやめた方がいい」「失敗した時の責任は誰がとるんだ」という最初から失敗と決めつける声に「何かあったら設立発起人が責任をとるから」と説得し、協議会が設立されました。

## 2 活動内容

活動の柱を「農業」・「福祉」・「交流」と決め、「足元にある資源と人材」を活用して地域を活性化させるために、遊休農地を活用して高齢者、障がい者、保育園と共同で「福祉農園」を設置。農園で収穫した作物を福祉施設への食材や配食サービスへの食材として供給しています。また、農園は様々な人たちの交流の場にもなっており、毎年賑わいを増してきています。

## 3 連携団体との協働＝コラボレーションが相乗効果を生み出した

協議会を設立したものの所詮は素人。課題解決のために「こんな地域を目指したいんです」と手作りのビジョンを持って花巻市や岩手県立大学を訪問、快く相談に乗っていただいたことで活動内容が一気にレベルアップしました。現在はJAを含めた7つの団体が連携団体として活動に協力してくださっています。

## 4 岩手県立大学生の卒業課題研究がJA岩手県大会の議案に

当協議会の活動を岩手県立大学の学生が卒業課題研究として取り上げ、その内容が平成27年度のJA岩手県大会において地域活性化策として大会議案に盛り込まれました。

平成28年度からは、大会で決議された議案が「くらしの活動推進対策事業」として事業化されています。

## 5 活動の成果

協議会設立から10年。相変わらず課題は山積していますが、目に見える形の成果ができましたので紹介します。

①「福祉農園」を中心とした活動は、地域外へも浸透し交流人口が飛躍的に伸びています（設立前0人→平成28年1,570人）。

また、農園作業に関わっている人たちはほとんどが高齢者であり、社会参加と生きがいの場にもなっています。

②「福祉農園」で栽培している山の果実（ガマズミ、ナツハゼ）をゼリーに加工。新たな高齢者の所得（現状はおこづかい程度ですが・・・）につながりました。

③現在、地域は70世帯。協議会の活動が始まってから、移住者・Uターン世帯が11世帯あり、地域の新たな人材になっています。

活動を続けていても課題が全て解決したわけではありません。私たちはこれからも「個人の課題は地域の課題」として共有し、「住民主体」で「近所の近助」を進め「共生型コミュニティ」の構築を目指していきたいと思っています。

（くまがい てっしゅう）